

新たな「高齢社会対策大綱」骨子案 応募意見

◎サブタイトル 「すべての世代にとって豊かな長寿社会の構築」（有識者答申から）

「世代」というのは青少年（成長期）・中年（成熟期）・高年（円熟期）の三期三世代。四人に一人、3500万人余に達して世代としてのボリュームを得た「高年世代」が、保持する知識・技術・資産・人脈などを活かして参加する今回の改定では、「すべての世代にとって豊かな長寿社会の構築」が最良のサブタイトルです。

◎基本的考え方 「人生100年時代」の意識の醸成

前回2012年の「改定大綱」では「人生65年」から「人生90年」への意識改革を要請しています。「人生100年時代」は、安倍首相も「所信表明演説」で訴えたように、いまやすべての国民が人生の目標としてめざすべきもの。その意識を広く醸成するために、今回の「大綱」の基本的考え方に「人生100年時代」は据えて置くべきでしょう。

◎ 「一人暮らし高齢者」の増加と住宅

大戦後の「女性解放」の柱となってきたのが「マイホーム」。夫婦二人で二人の子どもを育てて「標準家族」といわれてきました。最後は狭い団地の2DKに「女性の一人暮らし」でその役割を終えようとしています。新たな女性の役割は、M字型から一文字型就労による能力の発揮です。そのためには三世代がプライバシーを確保しながら暮らせる「三世代型住宅」が求められます。わが家三代の暮らしの知恵を継承することは、国の骨組みである「家庭」を強固にするはず。すでに多くの自治体が支援を始めています。

◎地域コミュニティ 生涯学習・まちづくり

「大綱」の制定当初から対策の一環として取り上げられながら延滞しているのが「生涯学習」。地域で暮らす高齢者が抱える課題への自治体の対応として（1）健康と暮らしのための「地域包括支援センター」、（2）就労と地域活動のための「シルバー人材センター」とともに必要なのが、（3）生きがいとまちづくりのための「生涯学習センター」。その核になるのが高齢者がエイジング期に必要とする知識や技術や一生の友人を得ることが出来る「地域生涯教育大学校」（60歳以上が修学対象、2～3年、中学校区単位）です。